

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 富屋小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 35 人

② 算数 35 人

5 留意事項

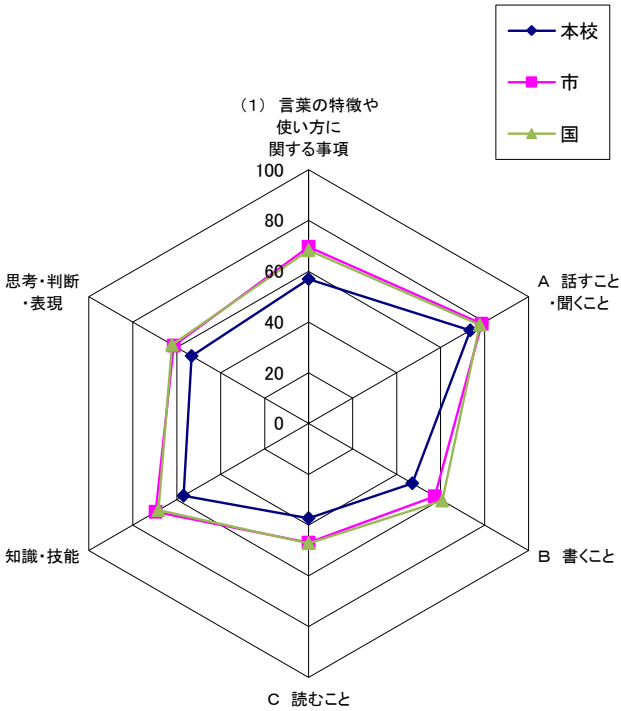
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立富屋小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	56.9	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	73.5	78.7	77.8
	B 書くこと	47.1	57.3	60.7
	C 読むこと	37.3	46.9	47.2
観点	知識・技能	56.9	69.6	68.3
	思考・判断・表現	53.3	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

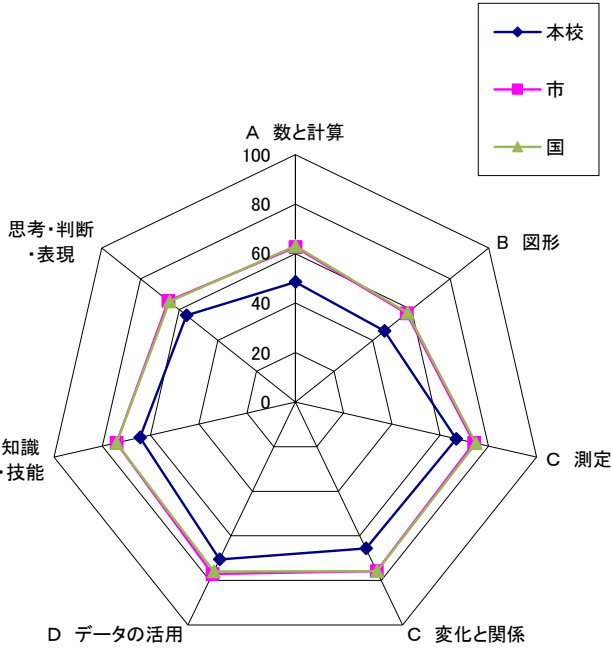
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○思考に関わる語句である「～より～の方が～である。」の使い方を理解し、話や文章の中で使用する問題の正答率は、県や全国の平均と同等だった。 ●文の中で使用している字を漢字で正しく使用する問題の正答率は、県や全国の平均を大きく下回った。	・引き続き教科書で取り上げられている語句を使って、例文を作成させ、文章の中で語句を使用させる機会を設けていく。 ・今後も漢字練習やAIDリルを使用した漢字の読み書きの復習に取り組んでいく。また、熟語や意味を調べたり、用例を考えて文章に用いたりさせるなど、漢字の意味を理解し文章の中で正しく使える学習方法を工夫する。
A 話すこと・聞くこと	○話し手のスピーチの内容が明確になるように「はじめ・中・終わり」の構成を考える問題の正答率は、県や全国の平均を上回った。 ●話し手が資料を用いた目的を理解して、適切なものを選択する問題の正答率は県や全国の平均を下回った。 ●話し手のスピーチの一部分を補足する際に相応しい資料を選択する問題の正答率は県や全国平均をやや下回った。	・話を聞き取る際や話をする際に「はじめ・中・終わり」の構成を意識させる。 ・友達に自分の考えを論理的に説明する場を設ける。また資料を使って文章を書いたり、説明させたりする機会を設けていく。 ・友達の意見を聞いて補足したり、どのような事を言っていたのかを再確認してもう一度自分なりに話したりするなど、能動的に聞く意識をもたせていく。
B 書くこと	●自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考える問題の正答率は、県や全国の平均を下回った。 ●目的に応じて、理由を明確にししながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の正答率は県や全国の平均を大きく下回った。	・国語を中心に他の教科においても、自分の考えを自分の言葉で書く機会を設けていく。 ・文章を書く際の構成方法をその都度確認し、「はじめ・中・終わり」では、それぞれどのような内容を書いていけばよいかを押さえた上で、書く活動に取り組ませていく。
C 読むこと	●文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することや、目的に応じ文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題の正答率は県や全国の平均を下回った。 ●目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題の正答率は県や全国の平均を大きく下回った。	・説明文を読むだけでなく、「序論・本論・結論」になる部分を読み取らせたり、図表の効果を考えさせたりするなどして、筆者の意図や文章全体の理解が深まるようにする。

宇都宮市立富屋小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	48.5	62.6	63.1
	B 図形	46.1	57.5	57.9
	C 測定	66.7	74.1	74.8
	C 変化と関係	65.7	75.8	75.9
	D データの活用	70.6	77.1	76.0
観点	知識・技能	64.4	74.1	74.1
	思考・判断・表現	56.3	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題の平均正答率は、全国平均と同等である。 ●商が1より小さくなる(整数)÷(整数)の場面から除法の式に表し計算する問題の平均正答率は、全国平均を大きく下回った。問題の意味を深く読み取らずに、除数と被除数を反対にして立式した割合が半数以上であった。 ●30mを1としたときに12mが0.4に当たる理由を記述する問題の平均正答率は、全国平均を大きく下回った。無回答率も高い。	・朝の学習の時間などを利用して、加法、減法、乗法、除法が混じった問題に取り組み、反復練習を多く取り入れることで基礎的基本的な計算問題の習熟を図る。 ・文章題を解く際に、問題の場面を想起させ、条件を整理したり、問われている数量が何かを意識したりすることで、正しい立式ができるよう支援する。 ・複数の情報から必要な情報を選択し、立式させたり、文章や図で記述して考えさせる機会を多く取り入れ、習熟を図る。
B 図形	○三角形の面積を求める問題の平均正答率は、全国平均と同等である。 ●複数の図形を組み合わせた図形の面積について、答える問題の平均正答率は、全国平均を大きく下回った。問題の条件を把握せず、複合図形のみを見て答えてしまっている誤答が目立った。	・基本的な図形の面積の求め方を復習する機会を設定して、更なる定着を図る。 ・複数の図形を組み合わせた図形では、どのような図形に分けられるのか考えることで、位置や向きに関係なく面積は等しいことを、練習問題を解いたり、身の回りにある図形を意識して様々な見方をしたりする機会を通して、捉えさせる。
C 測定	○条件に合う時刻を求める問題の平均正答率は、全国平均をやや上回った。	・日常生活に必要な時刻と時間にかかわる問題に常時取り組むことで習熟を図る。
C 変化と関係	○速さが一定であることを基に、道のりを歩くのにかかる時間を書く問題の平均正答率は、全国平均と同等である。 ●速さを求める除法の式と商の意味を理解し正しい答えを選ぶ問題の平均正答率は、全国平均を下回った。また、速さと道のりを基に時間を求める問題の平均正答率も、全国平均を下回った。	・資料から分かることを読み取らせたり、読み取ったことを文章で記述させる機会を設定し、更なる定着を図る。 ・式や図が何を表しているのかを読み取ったり、そこから何が分かるかを捉える機会を増やすために、友達の作った式がどのような意味をもっているか考えさせたり、友達の考え方や教科書に示された求め方を自分でも実際に解いてみる機会を設定したりして、習熟を図る。
D データの活用	○棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題の平均正答率は、全国平均をやや上回った。 ●データを二次元の表に分類整理する問題の平均正答率は、全国平均を下回った。 ●帯グラフで表された複数のデータを比較し、特徴にあった項目とその割合を記述する問題の平均正答率も、全国平均を下回った。個々のグラフを読み取り、それらを関連付けて考察することに課題が見られる。無回答率も高い。	・今後、算数だけでなく、各教科においても、様々な表やグラフの読み取りをさせ、グラフからどんな特徴や傾向が分かるかや、表の数値が何を表しているかを文章で記述させる機会を設け、習熟を図る。

宇都宮市立富屋小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」との質問には、肯定回答が90%程度あり、県や全国の平均を上回っている。引き続き、学級活動や保健体育、家庭科などの学習だけではなく、養護教諭や学校栄養士などと連携を図りながら、睡眠や朝食の重要性を考えさせたり、規則正しい生活習慣を身に付けさせることにつなげていきたい。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」との質問には100%の児童が肯定回答をした。人の役に立てた時の達成感や満足感を今後も大切にさせ、社会のために自分を高めることができる児童の育成をしていく。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」との質問には、100%のが肯定回答をした。人の話を最後まで聞くことは話の内容を理解する上で必要不可欠な力であるので、引き続き傾聴の姿勢を意識させた話し合いをさせていく。

●「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」との質問には、否定的回答が45.7%と県や全国平均を大きく上回った。自分の考えを相手に伝わるよう、構成を考えた説明は高度ではあるが、説明の仕方の型を提示して、相手にわかりやすく説明できるよう取り組ませていく。また、タブレットのジャムボードやノートに書いた図や式などを使って、友達に分かりやすく説明できるよう取り組ませていく。

●「普段(平日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」との質問には、「3時間以上」と答えた児童は34%程度いる。これは全国や県の平均を上回っている。また、「学校の授業以外に普段(平日)どれくらいの時間、勉強をしますか」との質問に対して、推奨している1時間以上を勉強していると回答した児童は、約45%と全国平均である61%を下回っている。ゲームをする時間と学習する時間のバランスがとれるよう、家庭と連携し対応していきたい。また、家庭学習のよい取組を紹介するなどして学習習慣が身に付くよう支援していきたい。

●「国語の勉強は好きですか」「算数の勉強は好きですか」との質問に否定的な回答をした児童は、40%程度いる。国語や算数の学習の楽しさを実感できる授業を展開していき、学習意欲の底上げができるよう実態に合った教材研究をしていく必要がある。

●「解答時間は十分でしたか」との質問の否定的な回答が、60%程度あり、県や全国平均を大きく上回った。時間を意識した問題演習に日頃から取り組ませ、時間内に回答できるよう働きかけていく。

●「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」との質問には、約63%の児童が肯定的な回答をした。今後、もし臨時休校になった際には、本年度から本格的に導入されたタブレットを活用し、臨時休校期間中も学習する機会を奪わないようにしていきたい。また、そのような事態になっても継続した学習を成り立たせるよう、日頃からタブレットを活用した学習に取り組ませていき、不測の事態に対応する力も教師、児童共々身に付けられるよう努力していく。

宇都宮市立富屋小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の問いや気付きと結びつけた課題設定と発問の工夫	課題(めあて)と学習問題を区別するため、言葉を吟味し、既習の学習内容が想起されるような焦点化された課題(めあて)を提示している。	「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、71.4%で県より5%程度下回っている。
意見を交換し、互いの考えを深めたり広げたりできるような場の設定	発達の段階に応じたノート指導を行い、各教科の授業の中で自分の考えを書く活動を意図的に取り入れている。また、視点を明確にした話し合い活動を設定し、伝える力の向上を図る。	「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、94.3%で県と同等であるが、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、60%で県より8%程度下回っている。